

九州共立大学学則

昭和42年学園規則第1号

施行：昭和42年4月1日

最終改正：平成24年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。

(学是)

第1条の2 本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。

(自己評価等)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の設置目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 点検及び評価を行う項目及び体制については、別に定める。

(学部、学科)

第3条 本学に次の学部、学科を置く。

(1) 経済学部 経済・経営学科

(2) スポーツ学部 スポーツ学科

(経済学部の人材養成及び教育研究上の目的等)

第3条の2 経済学部及び経済・経営学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適應できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。

(スポーツ学部の人材養成及び教育研究上の目的等)

第3条の3 スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。

併せて、自己理解の基に、他者との協調性、寛容性、社会性、コミュニケーション能力を育み、リーダーシップの取れる人材養成を目的とする。

(入学定員及び収容定員)

第4条 本学に設置する学部、学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
経 済 学 部	経 済 ・ 経 営 学 科	400人	1,600人
ス ポ ー ツ 学 部	ス ポ ー ツ 学 科	250人	1,000人

(事務局、企画広報部、教務部、学生支援部、就職支援部、入試部及び附属施設)

第5条 本学に、事務局、企画広報部、教務部、学生支援部、就職支援部及び入試部を置く。

2 本学に、次の附属施設を置く。

- (1) 九州共立大学附属図書館
- (2) 九州共立大学総合研究所
- (3) 九州共立大学情報処理教育研究センター
- (4) 九州共立大学生涯学習研究センター
- (5) 九州共立大学学習支援センター
- (6) 九州共立大学共通教育センター

3 事務局、企画広報部、教務部、学生支援部、就職支援部、入試部及び附属施設に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 教職員組織

(教職員)

第6条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技能員及びその他の職員を置く。

(評議会)

第7条 本学に全学的な管理及び運営に関する重要事項を審議するため評議会を置く。

2 評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第8条 本学に学部の教育研究に関する重要事項を審議するため各学部に教授会を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年及び学期)

第9条 学年は、原則として、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて次の2期とする。

- (1) 前期 4月1日から9月30日まで
- (2) 後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 定期の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 創立記念日(11月5日)
- (3) 春期休業日 4月1日から4月10日まで
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月23日まで
- (5) 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで

ただし、学長が特に必要と認めた場合は、休業日を変更し、又は臨時に休業することができる。

第4章 修業年限及び在学期間

(修業年限)

第11条 修業年限は、4年とする。

(在学期間)

第12条 在学期間は、8年を超えることができない。ただし、第17条及び第18条の規定により入学した学生は、第20条により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年を超えて在学することができない。

第5章 入学

(入学の資格)

第13条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を終了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を終了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した

外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) その他本学において相当の年齢に達し、前各号に規定された者と同等以上の学力があると認めた者

（入学の時期）

第14条 入学の時期は、学期の始めとする。

（入学者の選考）

第15条 入学志願者に対して選抜試験を行う。

2 入学志願者は、入学志願書、出身学校長から提出する調査書又はこれに準ずる書類及び入学検定料を添えて所定の期日までに提出しなければならない。

（入学の許可等）

第16条 選抜試験に合格した者は、指定の期日までに所定の学生納付金を納め、保証人連署の誓約書を提出しなければならない。

2 保証人は、父母又はこれに代わる者で独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得るものでなければならない。

3 本学が保証人として不適当と認めたときは、その変更をさせることがある。

4 学生が保証人を変更しようとするとき又は保証人が住所氏名を変更したときは、直ちに届け出なければならない。

5 第1項の手続きが終了した者について、学長は入学を許可する。

（学士入学）

第17条 次の各号の一に該当する者については、学士入学者として選考のうえ教授会の議を経て学長が入学を許可する。

(1) 本学の1学部を卒業し、さらに他の学部又は同一学部の他の学科に入学を志願する者

(2) 他の大学を卒業し、本学の学部に入学者を志願する者

（編入学）

第18条 次の各号の一に該当する者については、編入学者として選考のうえ教授会の議を経て学長が入学を許可する。

- (1) 他の大学を退学した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第92条の3に定める従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程で、修業年限が2年及び総授業時間数が1,700時間以上の課程を修了した者又は専門士の称号（見込）のある者
（転部、転科）

第19条 転部、転科を希望する者は、転部、転科を希望する学部の教授会の議を経て学長の許可を受けたときに限り、他の学部、学科へ転部、転科することができる。

2 転部、転科に関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が別に定める。

（学士入学者、編入学者及び転部、転科者の単位の認定等）

第20条 第17条、第18条又は第19条の規定により学士入学、編入学又は転部、転科を許可された者の既に履修した授業科目及びその単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

第6章 教育課程及び履修方法等及び科目等履修生

（授業科目）

第21条 学部の授業科目をキャリアデザイン科目、総合教養科目、専門教育科目及び自由選択科目に分け、これを各年次に配当して履修するものとする。

2 前項に定めるもののほか、教職に関する専門教育科目を置く。

3 授業科目の種類は、必修科目、選択科目、自由科目とし、科目名称及び単位数は別表（1）から別表（15）のとおりとする。

（単位の計算）

第22条 1年間の授業を行う期間は、試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とし、各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

2 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、教授会の議を経て15時間から30時間の授業をもって

1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の実験、実習又は実技をもって1単位とする。

3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学習の成果を評価するものとし、所定の単位を与える。

(履修方法)

第23条 授業科目は、教授会の定める教育課程に従い各年次に配当する。学生は、原則として各年次に配当された授業科目を履修するものとする。

2 学生は、履修しようとする授業科目を指定の期日までに履修申告書を提出し、学部長の許可を受けなければならない。

3 本学の教育課程は、別表1のとおりとする。

(他の学部又は学科の授業科目の履修)

第24条 学生は、学部履修規程の定めるところにより他の学部又は学科の授業科目の履修及びその単位数を修得することができる。この場合において学生は、教授会の承認を得なければならない。

(単位の認定)

第25条 各授業科目の単位の認定は、授業科目を履修した学生に対し試験のうえ単位を与えるものとする。

2 前項の試験等の成績の評価は秀、優、良、可、不可とし、秀、優、良、可を合格とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第26条 教育上有益と認められるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第27条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第28条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大

学等において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第26条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（科目等履修生）

第29条 本学の学生以外の者で1又は複数の授業科目を履修する者（以下「科目等履修生」という。）に対し、単位を与えることができる。

- 2 科目等履修生に対する単位の授与については、第25条の規定を準用する。
- 3 科目等履修生として本学の授業科目の履修を許可される者は、第13条に定める資格を有する者で、当該学部の教育研究に支障がない場合に限り、選考のうえ教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
- 4 科目等履修生の履修期間は、本学の特定の授業科目の単位修得を目的とする（以下「科目登録制」という。）者については、1年以内とし、コースとして設定された複数の授業科目の単位修得を目的とする（以下「コース登録制」という。）者については、その単位修得までとする。
- 5 科目等履修生として本学の授業科目の履修を許可された者の登録料及び履修料は、別に定める。ただし、コース登録制による科目等履修生で、その履修期間が2年以上にわたる場合の登録料及び履修料は年度ごとに納付するものとする。

（教育職員免許状）

第30条 教育職員免許状を授与されるに必要な資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を修得しなければならない。

- 2 本学において取得できる免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

学部・学科の名称 (正規の課程)	免許状の種類(免許教科)	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状

経済学部	経済・経営学科	社会	地理歴史・公民・商業・情報
スポーツ学部	スポーツ学科	保健体育	保健体育

3 前項に定めるもののほか授業科目及び単位の修得方法については、教授会の議を経て定める。

(社会教育主事資格の資格取得)

第30条の2 社会教育法第9条の4第3号により社会教育主事の資格を得ようとするものについては、社会教育主事講習等規程(昭和26年文部省令第12号)第11条に基づき本学が定める社会教育主事に関する科目及び単位数を修得しなければならない。

2 授業科目の履修及び単位修得方法については、別に定める。

第7章 休学、復学、退学、再入学、転学、除籍、復籍及び留学

(休学)

第31条 疾病その他やむを得ない理由により3ヶ月以上修学することができないときは、理由を付して保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。ただし、疫病の場合は、医師の診断書を添えて願い出なければならない。

2 疾病等の理由により修学が不適当と認められる学生に対して、学長は教授会の議を経て休学を命ずることができる。

3 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

4 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

5 休学期間は、修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第32条 前条の規定により休学した者が復学を願い出たときは、学長は教授会の議を経て復学を許可することができる。

2 復学は、休学期間終了後に迎える学期の初めに行う。

3 復学する学年は、休学時の学年とする。ただし、半期休学で復学の時期が次年度からとなる場合については、進級要件を満たす場合に限り進級した学年とする。

(退学)

第33条 疾病その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を付して保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て学長の許可を受けるものとする。

(再入学)

第33条の2 前条の規定により退学した者が再入学を願い出たときは、学長は教授会の議を経て入学を許可することができる。

2 再入学できる者は、再入学について正当な理由を有し、原則として退学した日から4年以内に願い出た者とする。

3 再入学は、原則として退学時の所属学部・学科、学年及び学期の始めにおいて許可する。ただし、やむを得ない事情により許可できないことがある。

(転学)

第34条 他の大学へ転学しようとする者は、他大学等を受験する前に、転学(受験許可)願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第35条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 授業料その他の学生納付金の納付を怠り督促してもなお納付しない者

(2) 第12条に規定する在学期間を超えた者

(3) 第31条第4項に規定する休学期間を超えた者

(4) 長期にわたる行方不明者

(5) 第23条第2項に規定する履修申告を正当な理由なく行わない者

2 除籍に関する必要な事項は、別に定める。

(復籍)

第35条の2 前条第1項第1号の規定により除籍された者が復籍を願い出たときは、学長は教授会の議を経て復籍を許可することができる。

2 復籍できる者は、除籍された日から2年以内に願い出た者に限る。

3 復籍は、原則として除籍時の所属学部・学科、学年及び学期の始めにおいて許可する。ただし、やむを得ない事情により許可できないことがある。

(留学)

第35条の3 国内外の大学等に留学する者は、事前に留学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。

2 留学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、学長が1年を限度として留学期間の延長を認めることができる。

3 留学期間は、第11条に規定する修業年限に算入する。

第8章 卒業及び学位記の授与

(卒業)

第36条 学長は、本学に4年(第17条又は第18条の規定により入学した者につい

ては、第20条により定められた在学すべき年数)以上在学し、別表に定める授業科目の中から経済学部124単位以上、スポーツ学部124単位以上を修得した者に対し、教授会の議を経て卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 前項に定める卒業に必要な単位の修得区分は、次のとおりとする。

(1) 経済学部 キャリアデザイン科目 6単位以上
 総合教養科目 30単位以上
 専門教育科目 76単位以上
 自由選択科目 12単位以上
(自由選択科目には、自学部で履修した卒業要件単位数を超える科目、及び他学部で履修した科目を含む。)

(2) スポーツ学部 キャリアデザイン科目 6単位以上
 総合教養科目 24単位以上
 専門教育科目 76単位以上
 自由選択科目 18単位以上
(自由選択科目には、自学部で履修した卒業要件単位数を超える科目、及び他学部で履修した科目を含む。)

(学位)

第37条 前条の規定により単位を修めた者は、次の区分に従い、学位を授与する。

経済学部 学士(経済学)

スポーツ学部 学士(スポーツ学)

第9章 賞罰

(表彰)

第38条 学生として模範とするにたる者は、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

(懲戒)

第39条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒することができる。

- (1) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (2) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく出席が常でない者

2 懲戒は、退学、停学及び訓告する。

3 懲戒に関する必要な事項は、別に定める。

第10章 厚生及び保健

(学生寮)

第40条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関する規定は、別に定める。

(厚生及び保健)

第41条 本学に厚生及び保健に関する諸施設を置く。

2 教職員、学生の保健のため毎年1回健康診断を行う。

3 本学に学校医及び保健師を置き、教職員、学生の保健衛生に関する相談及び治療に当たらせる。

第11章 奨学制度

(奨学生)

第42条 学業及び人格が特に優秀な学生に対しては、教授会の議を経て理事会の決定により授業料の減免又は学生納付金の一部を給費、貸与することがある。

(貸費生)

第43条 本学の学生中、品行方正、学力優秀であり修業中学生納付金支弁の途を失った者は、教授会の選考により貸費生として学生納付金を貸費することができる。

第12章 聴講生、特別聴講学生、研究生、委託生、研修員及び外国人学生

(聴講生)

第44条 第13条に該当する者で本学の特定の授業科目について聴講を希望する者は、選考のうえ教授会の議を経て聴講生として学長がこれを許可することがある。

2 聴講を許可された者は、第52条に規定する登録料、聴講料を所定の期日までに納入しなければならない。

(特別聴講学生)

第45条 学長は教授会の議を経て、他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が特別聴講学生として、本学の授業科目を履修することを認めることができる。この場合において、やむを得ない事由により当該大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、当該協議は事後において行うことができる。

2 特別聴講学生の登録料及び聴講料は、科目等履修生に関する規定を準用する。

(研究生)

第46条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、学部の教育研究に支障のない限り選考のうえ、教授会の議を経て、学長が研究生として入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(委託生)

第47条 本学において特定の授業科目を学修するため公の機関又は団体からの委託生は教授会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

2 委託生の授業科目の履修その他については、聴講生に関する規定を準用する。

(研修員)

第48条 学校教育法第1条に規定する学校、外国の学校その他の研究機関がその所属の教員又は職員につき特定の事項を定めて研修を願い出たときは、選考のうえ教授会の議を経て、学長が研修員として研修を許可することがある。

2 研修員は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研修期間は1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(外国人学生)

第49条 外国人で入学を志願する者に対しては、特別の選考により教授会の議を経て、学長が外国人学生として入学を許可することができる。

第13章 入学検定料、入学金及び授業料等

(入学検定料、入学金及び授業料等)

第50条 入学検定料、入学金及び授業料等学生納付金(以下「学納金」という。)は、別表2のとおりとする。

(学納金の納入期限)

第51条 学納金は、期日までに納入しなければならない。

2 学納金は、毎年4月、9月の2回に分けて納入するものとする。

3 学納金は、欠席又は停学中であってもこれを減免しない。

4 研究生及び研修員の納付金は、別表3のとおりとする。

5 退学、除籍の者であっても既納の学納金は返還しない。また、未納分があるときは、直ちに納入しなければならない。

6 休学を許可された者の学納金のうち授業料及び教育充実費の全額を免除する。ただし、学期の途中で休学を許可された者は、その期の学納金を納入しなければならない。

7 第35条の2の規定により留学を許可された者の留学期間中の授業料は、半額を免除する。

8 社会情勢により物価変動のある場合は、入学検定料、入学金及び学納金を変更又は増減することがある。

(登録料、聴講料及び履修料)

第52条 聴講生及び科目等履修生の登録料、聴講料、履修料及び実験実習費は、別表4のとおりとする。

(学納金等の不返還)

第53条 既に納入した入学検定料及び入学金は返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め地域文化の向上に貢献するため、本学に公開講座を開設することができる。

附 則

この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年2月19日から施行する。

附 則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

2 経過措置

(1) 改正後の九州共立大学学則第11条（在学期間）及び第22条別表の規定（以下「改正後の規定」という。）は、昭和63年度の入学者（学士入学者及び編入学者を除く。以下同じ。）から適用し、昭和62年度以前の入学者については、なお従前の例による。

(2) 改正後の規定は、昭和63年度の学士入学者又は編入学者から適用し、昭和62年度以前の学士入学者又は編入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和63年7月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成元年4月1日から施行する。

2 経過措置

(1) 平成元年3月31日在学する者で、同年4月1日以後引き続き在学する者に係る授業料の額は、改正後の学則別表学生納付金の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(2) 平成元年4月1日以後において、転部又は復学した者（休学していた者を除く。）に係る授業料の額は、改正後の学則別表学生納付金の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

附 則

1 昭和63年度以前において、入学した者に係る授業料その他学納金の額は、改正後の授業料その他学納金の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	費 目	授 業 料	校 費	施 設 費	合 計
		年 額	年 額	年 額	年 額
経 済 学 部		450,000円	51,000円	62,000円	563,000円
経済学部第二部		185,000円	20,000円		205,000円
工 学 部		550,000円	51,000円	103,000円	704,000円

- 2 この学則は、平成元年4月20日から施行する。ただし、改正後の学則別表中授業料その他学納金の項の規定は、平成元年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成元年8月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。

2 経過措置

- (1) 平成2年3月31日在学する者で、同年4月1日以後引き続き在学する者に係る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらず、なお従前のとおりとする。
- (2) 平成2年4月1日以後において、転部し又は復学した者（休学していた者を除く。）に係る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。
- (3) 改正後の学則第22条別表の規定（以下「改正後の規定」という。）は、平成2年度の入学者（学士入学者、編入学者で平成2年4月1日以後に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。）から適用し、平成2年4月1日前の在学者については、なお従前のとおりとする。
- (4) 学士入学者、編入学者で平成2年4月1日前の入学者に係る学年に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前のとおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。

2 経過措置

- (1) 第3条の規定に係わらず平成3年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	年 度	平成3年度～平成11年度	
		入 学 定 員	収 容 定 員

経済学部	経済学科	250人	1,000人
	経営学科	200人	800人
経済学部第二部	経済学科	100人	400人
工学部	機械工学科	80人	320人
	電気工学科	80人	320人
	土木工学科	80人	320人
	建築学科	80人	320人
	環境化学科	80人	320人
	開発学科	50人	200人

- (2) 学則第27条第2項の改正については、平成2年度の入学者(学士入学者、編入学者で、平成2年4月1日以後旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、平成2年4月1日前の在学者については、なお従前の例による。
- (3) 学則第22条第2項別表の(5)から(11)までの改正については、平成3年度の入学者(学士入学者、編入学者で、平成3年4月1日以後旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、平成3年4月1日前の在学者については、なお従前の例による。
- (4) 平成3年3月31日に在学する者で同年4月1日以後引き続き在学する者に係る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (5) 平成3年4月1日以後において転部し又は復学した者(休学していた者を除く。)に係る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成3年10月30日から施行し、改正後の九州共立大学学則の規定は平成3年7月1日から適用する。
- 2 別表受験料は、入学金及び学納金(第48条)については、平成4年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 3 平成4年3月31日に在学するもので同年4月1日以後引き続き在学するものに係

る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらずなお従前の例による。ただし、校費及び施設費については、改正後の規定の額とする。

- 4 平成4年4月1日以後において転部し又は復学したもの（休学していたものを除く。）に係る授業料の額は、改正後の学則別表学納金の規定にかかわらず当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。ただし、校費及び施設費については、改正後の規定の額とする。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 この学則は、平成5年9月9日から施行する。
（経過措置）
- 2 改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」については、平成5年度の入学者及び平成6年度の入学者であって平成6年4月1日以降に在学するものから適用する。
- 3 平成4年度以前の入学者は改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

（施行期日）

- 1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 学則第23条第3項別表の(1)から(3)までの改正については、平成6年度の入学者（学士入学者、編入学者で平成6年4月1日以後旧課程が適用される学年に入学者を除く。）から適用し、平成6年4月1日以前の在学者については、なお従前の例による。
（別科日本語研修課程学生の特例）
- 3 九州女子大学別科日本語研修課程の学生については、学則第50条別表及び第52条別表の規定にかかわらず、入学金については同表の額から10万円を控除した額とし、聴講料及び科目等履修料は1科目5,000円とする。

附 則

この学則は、平成6年4月28日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年6月21日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成 6 年 10 月 26 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」については、平成 5 年度の入学者及び平成 6 年度の入学者並びに平成 7 年度の入学者であって平成 7 年 4 月 1 日以降に在学するものから適用する。
- 3 平成 4 年度以前の入学者は、改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 7 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成 7 年 11 月 29 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」については、平成 5 年度以降の入学者で平成 8 年 4 月 1 日以降に在学する者から適用する。
- 3 平成 4 年度以前の入学者は、改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 8 年 7 月 25 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成 8 年 10 月 31 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」については、平成 9 年度以降の入学者から適用する。
- 3 平成 8 年度以前の入学者は、改正後の学則別表中「授業料その他の学納金」の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成12年 4 月 1 日から施行する。

2 経過措置

(1) 第 4 条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの間の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	245	995	240	985	235	970	230	950	225	930
	経営学科	195	795	190	785	185	770	180	750	175	730
経済学部第二部	経済学科	100	400	100	400	100	400	100	400	100	400
工学部	機械工学科	77	317	74	311	71	302	68	290	65	278
	電気工学科	77	317	74	311	71	302	68	290	65	278
	土木工学科	78	318	76	314	74	308	72	300	70	292
	建築学科	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	環境化学科	76	316	72	308	68	296	64	280	60	264
	開発学科	49	199	48	197	47	194	46	190	45	186

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。

2 経過措置

(1) 第4条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科		年 度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員		
経済学部	経済学科	240	985	235	970	230	950	225	930		
	経営学科	190	785	185	770	180	750	175	730		
経済学部第二部	経済学科	100	400	100	400	100	400	100	400		
工学部	機械工学科	74	311	71	302	68	290	65	278		
	電気電子情報工学科	74	311	71	302	68	290	65	278		
	土木工学科	76	314	74	308	72	300	70	292		
	建築学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	環境化学科	72	308	68	296	64	280	60	264		
	地域環境システム工学科	48	197	47	194	46	190	45	186		

(2) 平成12年度以前に入学した者に対する改正後の学則第3条、第4条及び第30条第2項の規定の適用については、なお従前の例による。

(3) 平成13年度(2年次以上)及び平成14年度(3年次)に学士入学並びに編入学した者に対する学則第3条、第4条及び第30条第2項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。

2 経過措置

(1) 改正後の学則別表2については、平成13年度以降の入学生から適用する。

(2) 平成12年度以前の入学者は、改正後の学則別表2中「授業料その他の学納金」の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成13年4月12日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成13年11月1日から施行し、平成14年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年9月12日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第30条第2項「取得できる免許状の種類」及び別表1教育課程については、平成15年度入学者(学士入学者、編入学者で平成15年4月1日以後に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、同月1日前の在学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成15年11月11日から施行し、平成15年10月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年6月24日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第3条、第30条第2項及び別表1の規定は、平成17年度入学者(学士入学者、編入学者で平成17年4月1日以後に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、同月1日前の在学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年5月30日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の第3条、第30条第2項及び別表1の規定は、平成19年度入学者(学士入学者、編入学者で平成19年4月1日以降に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、同日前の在学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の改正規定は、平成18年4月1日から適用し、第50条別表2の改正規定は、同年10月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第4条、第30条第2項、第36条、第37条、別表1及び別表2の規定は、平成20年度入学者(学士入学者、編入学者で平成20年4月1日以降に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、同月1日前の在学者については、なお、従前の例による。

附 則

この規則は、平成20年4月25日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の第3条、第30条第2項及び別表1の規定は、平成21年度入学者(学士入学者、編入学者で平成21年4月1日以降に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。)から適用し、同日前の在学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表1の規定は、平成21年度入学者(学士入学者、編入学者で平成21年4月1日以降に旧課程が適用される学年に入学した者を除く。) から適用し、同年度前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成21年7月24日から施行し、同年4月1日より適用する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第36条第2項及び別表1の規定は、平成22年度入学者(学士入学者、編入学者で平成22年4月1日以降に旧規定が適用される学年に入学した者を除く。) から適用し、同年度前の在学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第36条第2項及び別表1の規定は、平成23年度入学者(学士入学者、編入学者で平成23年4月1日以降に旧規定が適用される学年に入学した者を除く。) から適用し、同年度前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成23年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

別表1 教育課程（第23条第3項）

別表(1)

経済学部

総合教養科目（30単位）

教養コア科目

ことばと文化

人間と哲学(2)、社会生活と倫理(2)、芸術を楽しむ(2)、ことばの世界(2)、文学の世界(2)、コミュニケーション技法(2)、論理トレーニング(2)

歴史と社会

歴史を考える(2)、法と生活(2)、現代国家と法（日本国憲法）(2)、政治と国際問題(2)、暮らしと経済(2)、人権・同和と社会(2)、現代社会と市民(2)

人間と環境

数学入門(2)、科学を楽しむ(2)、地球の科学(2)、科学技術の歴史(2)、生命と環境(2)、心の科学(2)、現代社会と教育(2)、異文化を考える(2)

総合科目

総合科目特殊講義A(2)、総合科目特殊講義B(2)、英語・文化ゼミナール(2)、英語・文化ゼミナール(2)、ドイツ語・文化ゼミナール(2)、ドイツ語・文化ゼミナール(2)、フランス語・文化ゼミナール(2)、フランス語・文化ゼミナール(2)、中国語・文化ゼミナール(2)、中国語・文化ゼミナール(2)、韓国語・文化ゼミナール(2)、韓国語・文化ゼミナール(2)、日本語・文化ゼミナール(2)、日本語・文化ゼミナール(2)、総合教養基礎ゼミナール(2)、総合教養基礎ゼミナール(2)、総合教養基礎ゼミナール(2)、総合教養基礎ゼミナール(2)、教養コア基礎ゼミナール(2)、教養コア基礎ゼミナール(2)、教養コア基礎ゼミナール(2)、教養コア基礎ゼミナール(2)、総合教養発展ゼミナール(2)、総合教養発展ゼミナール(2)

言語教育科目

英語

英語 (1)、英語 (1)、英語 表現法(1)、英語 表現法(1)、英語
コミュニケーション(1)、英語 コミュニケーション(1)、インテンシ
ブ・イングリッシュ(1)、海外英語研修(2)

ドイツ語

ドイツ語 (1)、ドイツ語 (1)、ドイツ語 (1)、ドイツ語 (1)

フランス語

フランス語 (1)、フランス語 (1)、フランス語 (1)、フランス語
(1)

中国語

中国語 (1)、中国語 (1)、中国語 (1)、中国語 (1)

韓国語

韓国語 (1)、韓国語 (1)、韓国語 (1)、韓国語 (1)

日本語

日本語 (1)、日本語 (1)、日本語 (1)、日本語 (1)

日本語文章表現法(2)

新修外国語研修(2)

情報教育科目

情報リテラシーA(1)、情報リテラシーB(1)、情報リテラシーC(1)、情
報リテラシーD(1)

健康教育科目

スポーツA(1)、スポーツB(1)、スポーツC(1)、スポーツD(1)、ス
ポーツE(1)、スポーツF(1)、健康科学(2)

スポーツ学部 (印は必修科目)

総合教養科目 (24単位)

教養コア科目

ことばと文化

人間と哲学(2)、社会生活と倫理(2)、芸術を楽しむ(2)、ことばの世界
(2)、文学の世界(2)、コミュニケーション技法(2)、論理トレーニング
(2)

歴史と社会

歴史を考える(2)、法と生活(2)、現代国家と法(日本国憲法)(2)、政治と国際問題(2)、暮らしと経済(2)、人権・同和と社会(2)、現代社会と市民(2)、仕事と自己実現(2)

人間と環境

数学入門(2)、科学を楽しむ(2)、地球の科学(2)、科学技術の歴史(2)、生命と環境(2)、心の科学(2)、現代社会と教育(2)、異文化を考える(2)

総合科目

総合科目特殊講義A(2)、総合科目特殊講義B(2)、英語・文化ゼミナール(2)、英語・文化ゼミナール(2)、ドイツ語・文化ゼミナール(2)、ドイツ語・文化ゼミナール(2)、フランス語・文化ゼミナール(2)、フランス語・文化ゼミナール(2)、中国語・文化ゼミナール(2)、中国語・文化ゼミナール(2)、韓国語・文化ゼミナール(2)、韓国語・文化ゼミナール(2)、日本語・文化ゼミナール(2)、日本語・文化ゼミナール(2)、総合教養発展ゼミナール(2)、総合教養発展ゼミナール(2)

言語教育科目

英語

英語(1)、英語(1)、英語表現法(1)、英語表現法(1)、英語コミュニケーション(1)、英語コミュニケーション(1)、インテンシブ・イングリッシュ(1)、海外英語研修(2)

ドイツ語

ドイツ語(1)、ドイツ語(1)、ドイツ語(1)、ドイツ語(1)

フランス語

フランス語(1)、フランス語(1)、フランス語(1)、フランス語(1)

中国語

中国語(1)、中国語(1)、中国語(1)、中国語(1)

韓国語

韓国語(1)、韓国語(1)、韓国語(1)、韓国語(1)

日本語

日本語(1)、日本語(1)、日本語(1)、日本語(1)

日本語文章表現法(2)
新修外国語研修(2)

情報教育科目

情報リテラシーA(1)、情報リテラシーB(1)、情報リテラシーC(1)、情報リテラシーD(1)

別表(2)

経済学部

経済・経営学科自由選択科目(12単位)

生涯学習と社会教育(2)、生涯学習・社会教育の指導者(2)、社会教育計画の立案(2)、社会教育施設の経営(2)、社会教育実習(2)、社会教育演習(2)、教職論(2)、教育原論(2)、教育史(2)、教育心理学(2)、教育制度論(2)、教職総合講義(2)、総合演習(2)

スポーツ学部

スポーツ学科自由選択科目(18単位)

生涯学習と社会教育(2)、生涯学習・社会教育の指導者(2)、社会教育計画の立案(2)、社会教育施設の経営(2)、社会教育実習(2)、社会教育演習(2)、教職論(2)、教育原論(2)、教育史(2)、教育心理学(2)、教育制度論(2)、教職総合講義(2)、総合演習(2)、教育課程論(2)、道德教育の研究(2)、教育方法論(2)、生徒・進路指導論(2)、教育相談(2)

経済学部(印は必修科目、*は自由科目)

別表(3)

経済・経営学科専門教育科目(76単位)

経済・経営入門(2)、経済学概論(2)、経営学概論(2)、マクロ経済学入門(2)、ミクロ経済学入門(2)、統計学入門(2)、金融論入門(2)、財政学入門(2)、経営学入門(2)、マーケティング入門(2)、簿記入門(2)、会計学入門(2)、ベンチャー企業入門(2)、基礎数学(2)、経済数学(2)、経済史(2)、経済学史(2)、日本経済史(2)、日本経済論入門(2)、経済政策入門(2)、国際関係論(2)、公共経済学入門(2)、国際経済学(2)、計量経済学(2)、交通論(2)、行政法(2)、労働と法(2)、労働経済学(2)、租税論(2)、

経営史(2)、日本経営史(2)、スポーツビジネス入門(2)、商業史(2)、近代商業史(2)、会社法(2)、商法総則(2)、民法(総則・物権)(2)、民法(債権)(2)、社会保障論(2)、中小企業論(2)、ビジネス法務(2)、企業会計法(2)、インターネット論(2)、ビジネス情報処理(2)、外書講読A(2)、外書講読B(2)、学外研修(2)、海外研修(2)、マクロ経済学(2)、ミクロ経済学(2)、統計学(2)、財政学(2)、経済統計(2)、経済戦略論(2)、近代日本経済史(2)、日本経済論(2)、公共経済学(2)、経済政策(2)、社会政策論(2)、ゲーム理論(2)、経済成長論(2)、産業組織論入門(2)、産業組織論(2)、経済発展論(2)、経済計画論(2)、経済戦略特講A(2)、経済戦略特講B(2)、金融論(2)、財務会計論(2)、財務諸表論(2)、金融システム論(2)、銀行論(2)、国際金融論入門(2)、国際金融論(2)、証券経済論入門(2)、証券経済論(2)、金融特講A(2)、金融特講B(2)、金融特講C(2)、金融特講D(2)、経済地理(2)、人口学(2)、ビジネスイングリッシュ(2)、ビジネスイングリッシュコミュニケーション(2)、社会福祉原論(2)、福祉政策(2)、福祉・医療マネジメント(2)、アジア経済論(2)、九州経済論(2)、地域経済論(2)、都市経済学(2)、西洋経済史(2)、東洋経済史(2)、地方財政論(2)、農業経済学(2)、欧米経済論(2)、貿易論入門(2)、貿易論(2)、国際・地域特講A(2)、国際・地域特講B(2)、国際・地域特講C(2)、国際・地域特講D(2)、環境産業マネジメント入門(2)、環境経済学入門(2)、環境経済学(2)、環境経営特講(2)、経営管理論(2)、経営戦略論(2)、企業倫理(2)、北九州の自然と環境(2)、産業技術論(2)、環境政策論(2)、生産管理論(2)、経営システム工学(2)、環境科学(自然環境系)(2)、環境科学(人間社会系)(2)、持続循環論(2)、環境産業マネジメント特講A(2)、環境産業マネジメント特講B(2)、経営学(2)、プレゼンテーション概論(2)、人的資源管理論(2)、人間関係論(2)、ビジネス実務概論A(2)、ビジネス実務概論B(2)、ビジネス実務演習A(2)、ビジネス実務演習B(2)、国際経営論(2)、データベース論(2)、情報科学(2)、プレゼンテーション演習(2)、プレゼンテーション演習(2)、情報機器利用プレゼンテーション演習(2)、ビジネス特講A(2)、ビジネス特講B(2)、ビジネス特講C(2)、ビジネス特講D(2)、スポーツビジネス論(2)、メディア論(2)、リーダーシップ論(2)、マーケティング論(2)、スポーツビジネス経済論(2)、スポーツリーダーシップ論(2)、ビジネスコーチング論(2)、スポーツコーチング論(2)、イベント論(2)、スポーツイベント論(2)、スポーツマネジメント論(2)、地域の発展とスポーツビジネス

ス(2)、スポーツビジネス特講A(2)、スポーツビジネス特講B(2)、スポーツビジネス特講C(2)、スポーツビジネス特講D(2)、企業論(2)、企業ガバナンス論(2)、流通管理論(2)、経営組織論(2)、販売管理論(2)、情報管理論(2)、情報経営論(2)、財務管理論(2)、経営管理特講A(2)、経営管理特講B(2)、経営管理特講C(2)、経営管理特講D(2)、工業簿記(2)、原価計算論(2)、経営分析(2)、マルチメディア論(2)、商業簿記(2)、商業簿記(2)、商業簿記(2)、会計監査論(2)、管理会計論(2)、税務会計論(2)、プログラミング論(2)、情報システム論(2)、会計・情報特講A(2)、会計・情報特講B(2)、会計・情報特講C(2)、会計・情報特講D(2)、ベンチャー企業論(2)、ビジネスプランニング(2)、中小企業経営論(2)、経営者論(2)、リスクマネジメント論(2)、後継者研修(2)、ベンチャー特講A(2)、ベンチャー特講B(2)、ベンチャー特講C(2)、ベンチャー特講D(2)、コース演習入門(2)、演習(2)、演習(2)、演習(2)、演習(2)、演習(2)、卒業論文(2)、*日本史(2)、*西洋史(2)、*東洋史(2)、*自然地理学概論(2)、*地誌学(2)、*人文地理学概論(2)、*法律学概論(2)、*哲学概論(2)、*倫理学概論(2)、*職業指導(4)、*情報社会及び情報倫理(2)、*情報と職業(2)、*情報処理学(2)

別表(4) 削除

別表(5) 削除

別表(6) 削除

別表(7) 削除

別表(8) 削除

別表(9) 削除

別表(10) 削除

別表(11) 削除

スポーツ学部（印は必修科目）

別表(12)

スポーツ学科専門教育科目（76単位）

スポーツ学概論(2)、解剖生理学(2)、スポーツ生理学(2)、スポーツバイオメカニクス(2)、スポーツ医学(2)、衛生学及び公衆衛生学(2)、スポーツ運動学(運動方法学を含む。)(2)、スポーツ心理学(2)、発育発達老化論(2)、スポーツ指導論(2)、スポーツ栄養学(2)、体力トレーニング論(2)、スポーツ社会学(2)、スポーツ流体力学(2)、スポーツ経営管理学(2)、スポーツ史(2)、障害者とスポーツ(2)、スポーツ統計学(2)、スポーツ哲学(2)、トレーニング実習(1)、体力測定評価法実習(1)、救急法実習(1)、テーピング・マッサージ実習(1)、運動生理学実験(1)、スポーツ動作解析法(1)、スポーツ教育概論(2)、学校体育論(2)、学校体育指導演習(2)、学校体育のマネジメント(2)、器械運動指導法(体力づくり運動を含む。)(1)、陸上競技指導法(1)、水泳指導法(1)、球技指導法A(1)、球技指導法B(1)、ダンス指導法(1)、武道指導法(1)、学校保健(学校安全を含む。)(2)、学校保健(小児保健・精神保健を含む。)(2)、学校保健指導演習(2)、社会体育論(2)、レクリエーション論(2)、ジュニアスポーツ論(2)、ジュニアスポーツ指導演習(2)、コーチング概論(2)、コーチング各論(2)、コーチング実習(1)、コーチングシステム論(2)、トレーニング計画論(2)、スポーツ戦術論(2)、球技論(2)、武道論(2)、舞踊論(2)、レジスタンストレーニング実習(1)、メンタルトレーニング演習(2)、スポーツトレーニング実験実習(1)、スポーツゲーム分析演習(2)、スポーツ栄養指導演習(2)、地域スポーツ論(2)、スポーツクラブのマネジメント(2)、アスレティックトレーナー概論(2)、機能解剖学(2)、機能解剖学(2)、スポーツ傷害論(2)、スポーツ傷害論(2)、コンディショニング論(2)、コンディショニング演習(2)、身体機能評価法(2)、スポーツ傷害評価法(2)、リハビリテーション論(2)、リハビリテーション論(2)、アスレティックリハビリテーション論(2)、スポーツ内科学(2)、アスレティックテーピング(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、アスレティックトレーニング現場実習(1)、健康フィットネス概論(2)、健康づくり運動理論(2)、健康づくり運動実技(2)、スポーツカウンセリング論(2)、運動生理

学(2)、運動プログラムの管理(2)、生活習慣病概論(2)、介護予防と運動療法(2)、運動負荷試験(2)、健康栄養指導演習(2)、アクアエクササイズ(1)、福祉レクリエーション実技(1)、健康産業施設実習(2)、健康運動指導特論(2)、スポーツ学演習入門A(2)、スポーツ学演習入門B(2)、スポーツ学演習(2)、スポーツ学演習(2)、卒業研究(6)、体操(体づくり運動を含む。)(1)、器械運動(1)、陸上競技A(1)、陸上競技B(1)、水泳(1)、バスケットボール(1)、バレーボール(1)、サッカー(1)、ハンドボール(1)、ラグビー(1)、ソフトボール・野球(1)、テニス(1)、剣道(1)、柔道(1)、ダンス(1)、レクリエーション実技(1)、エアロビックエクササイズ(1)、エアロビックエクササイズ(1)、キャンプ(1)、マリンスポーツ(1)、スノースポーツ(1)

教職に関する専門教育科目(自由科目)

経済学部

別表(13-1)

教育方法論(2)、商業科教育法(4)、社会科・地理歴史科教育法(4)、社会科・公民科教育法(4)、情報科教育法(4)、道德教育の研究(2)、教育課程論(2)、生徒・進路指導論(2)、教育実習(2)、教育実習(2)、事前事後指導(1)、教育相談(2)、教職実践演習(中・高)(2)

教職に関する専門教育科目(自由科目)

スポーツ学部

別表(13-2)

教育方法論(2)、保健体育科教育法(2)、保健体育科教育法(2)、保健体育科教育法(2)、保健体育科教育法(2)、教育実習(2)、教育実習(2)、事前事後指導(1)、教職実践演習(中・高)(2)

経済学部(印は必修科目)

別表(14)

経済・経営学科キャリアデザイン科目(6単位)

キャリア基礎演習A(1)、キャリア基礎演習B(1)、キャリアデザイン(1)、キャリアデザイン(1)、キャリアデザイン(1)、キャリアデザイン(1)、インターンシップ(企業研修)(2)

スポーツ学部（ 印は必修科目）

別表(15)

スポーツ学科キャリアデザイン科目（6単位）

キャリア基礎演習A(1)、 キャリア基礎演習B(1)、 キャリアデザイン(1)、 キャリアデザイン(1)、 キャリアデザイン(1) キャリアデザイン(1) インターンシップ(企業研修)(2)

別表2 入学検定料、入学金及び授業料等（第50条関係）

入学検定料 経済学部・スポーツ学部 28,000円

大学入試センター試験利用者 14,000円

ただし、第15条の規定により選抜試験を受験する者のうち、自由ヶ丘高等学校（専攻科を含む。）の卒業見込みの者及び卒業生については、本表入学検定料を全額免除とする。

入 学 金 経済学部 200,000円

スポーツ学部 220,000円

ただし、1 第16条の規定により入学を許可された者のうち、

(1) 福原学園が設置する大学（大学院を含む。） 短期大学（専攻科を含む。）及び高等学校（専攻科を含む。）の同窓生（卒業生）の子女については、本表入学金の半額とする。

(2) 自由ヶ丘高等学校（専攻科を含む。）の卒業見込みの者及び卒業生ですべての入学試験で入学する者は入学金を全額免除とする。

2 第17条の規定により学士入学を許可された者のうち、九州共立大学及び九州女子大学を卒業した者の入学金については、本表の半額とする。

3 第18条の規定により編入学を許可された者のうち、九州共立大学及び九州女子大学を中途退学した者ならびに九州女子短期大学を卒業した者の入学金については、本表の半額とする。

授業料その他学納金

学 部	費 目	授 業 料	教 育 充 実 費	施 設 費	合 計
		年 額	年 額	年 額	年 額

経済学部	562,000円	104,000円	184,000円	850,000円
スポーツ学部	720,000円	134,000円	226,000円	1,080,000円

ただし、第16条の規定により入学を許可された者のうち、自由ヶ丘高等学校（専攻科を含む。）の卒業見込みの者及び卒業生ですべての推薦入試及びAO入試の入学試験で入学する者は、授業料を半額免除、すべての一般入試及びセンター試験利用の入学試験で入学する者は施設費を全額免除とする。

別表3 研究生及び研修員の納付金（第51条関係）

研究生及び研修員の納付金は、選考料、入学金及び授業料とする。

授業料は、原則として4月及び9月の2回に分けて納入するものとする。ただし、申出により月毎に分けて納入することができる。

研究生

学部	区分	選考料	入学金	授業料(年額)	合計
経済学部	卒業生	10,000円	80,000円	278,000円	368,000円
	その他	10,000円	80,000円	371,000円	461,000円
工学部	卒業生	10,000円	100,000円	407,000円	517,000円
	その他	10,000円	100,000円	542,000円	652,000円
スポーツ学部	卒業生	10,000円	80,000円	278,000円	368,000円
	その他	10,000円	80,000円	371,000円	461,000円

研修員

学部	選考料	入学金	授業料(年額)	合計
経済学部	10,000円	80,000円	371,000円	461,000円
工学部	10,000円	100,000円	542,000円	652,000円
スポーツ学部	10,000円	80,000円	371,000円	461,000円

別表4 登録料、聴講料及び実験実習費（第52条関係）

(1) 聴講生

登録料		10,000円
聴講料	1単位につき	5,000円
実験実習費	1単位につき	5,000円

ただし、実験実習を伴う場合のみ納付。

(2) 科目等履修生

登録料 20,000円

履修料 1単位につき 10,000円

九州女子短期大学専攻科の学生が科目等履修生になった場合は、登録料、履修料を免除する。

ただし、教職専門科目の履修料は徴収する。